

死はコワイもの？

みなさん、死ぬのは怖いですか？「当然、コワイですよ」と思っているらっしやるかもしれませんね。そうです。生きている人間にとつて、死は何ともいえず恐ろしいものです。亡くなった人が生き返り、「死ぬってこういうことなんだよ」と教えてくれれば、少しは怖さも和らぐのかもかもしれませんが、何しろそんな前例はありません。死ぬとき、自分はどうなってしまうのか。どんな気持ちに陥るのか……。そんな未知なる思いが、恐怖心をかき立ててしまうのかもしれないね。

私はこれまで、患者さんの終末を支えるホスピス医として、二三〇〇人以上の方の看取りみとりに関わってきました。すべての方の「最期の瞬間」を見届けただけではありませんが、半数くらいの方については、臨終の場に立ち会ってきたように思います。その経験から、あえてこういわせていただきます。

「死は、思っているほど怖いものではありませんよ」
なぜそう思うのか、事例を交えてお話していきます。

あるとき、死期が迫っている一人の女性患者さんが、神妙な顔をして、私にこう訴えてくれました。

「先生、私、死ぬのが怖いです」

その方は、自分ももうすぐ旅立っていくことをご存じでした。しかし、死が近づくにつれ、だんだんと怖くなってきたというのです。

私は、何がそんなに怖いですかと聞いてみました。

「死ぬとき、ものすごく苦しむんじゃないかと思うと、怖くて……」

その方は、人は亡くなるとき、七転八倒して死んでいくのではないかと思っらっしやるようでした。もがき苦しみながらあの世に旅立つことを「怖い」と感じておられたのです。

私は彼女に向かって、こういいました。

「確かに、病気で苦しんでいる真つ最中は、体がだるかったり、つらかったり、痛かったりと、いろいろとしんどい時期があります。でも、亡くなるその瞬間というのは、どなたも非常に穏やかなんですよ。まるで、枯れ木が静かに土に還かへっていくように、すうっと旅立っていかれます。それはもう、不思議なほど穏やか。表情も落ち着いて